



(発行)  
熊本市教育委員会事務局  
学校教育部 総合支援課  
学校サポート班  
(文責)  
指導主事 田中 慎一郎  
tanaka.shinichiro@city.kumamoto.lg.jp

# ネットの問題は 人の問題

～ デジタル・シティズンシップ教育 ～



ゲームやスマートフォンなどのインターネット利用で子供たちが傷を負わないようにするには、どのようにすればよいか。一番簡単な方法は、利用させないこと。道路に出なければ、交通事故に遭うことはありません。しかし、生きていく上でそのようなことはできません。むしろ、交通手段を使いこなした生活の方が、その人の人生は豊かになるでしょう。大人は、子供の未来に対して責任があります。道具は使ってこそ、使い道を覚えます。そこには失敗がつきものです。安心安全な環境の中で失敗をさせる。大人たちはその場を

つくらなければなりません。このprogress (ぶろぐれす) は、そういった親子で進める情報モラル教育の材料の一つとして、発刊することになりました。実は、この「情報モラル」という言葉、英語での単語はありません。海外でも日本同様、様々な問題が起こっているのですが、それを防ぐために進められているのは、「デジタル・シティズンシップ」という教育です。

安全面だけに注目すれば活用を抑制しがちです。目的が子供の幸せであるとすれば、活用面にも目を向けた、社会参加やそのためのインターネット世界での表

現の仕方などの視点での教育も大切です。そのためには、私たち大人も勉強しなければなりませんね。

インターネットに依存する子供やトラブルを起こしてしまう子供は、そのための教育を受けることができずに困っている子供なのかもしれません。ネットを利用して問題を起こす困った子供ではなく、大人と一緒に使い方を考えてもらえなくて困っている子供。大人として彼らから逃げずに向き合いたいものです。ネットの問題は、心の問題。まずは、子供と対話して、困ったを出してもらおうところからスタートです。

熊本市教育センターホームページからもバックナンバーを見ることができます。(^) 且



おはなし  
聞いて



～自分のために～

なぜ子供時代にいろんなことを学ぶのか？その目的は？これについては、いろんな答えがありますが、私は、なりたい自分になるためだと考えます。この「なりたい」は、誰かの「なりたい」を邪魔して実現するものではありません。周囲との関係性の中で、自分の人生を歩む。この「ぶろぐれす」では、そのために身に着ける力をみなさんに伝えてきました。将来の自分が楽しくあるために、そしてその時の自分の周りも楽しくあるために、時間があるときにでも、上の二次元バーコードから、バックナンバーでも読み返してもらえると嬉しいです。自分と友だちを守る一歩を大事にしてください。

いアール  
つばやき



とちらかというと褒められて伸びるタイプの田中です。おかげさまで今年もいろんなところから講話依頼がありました。時代はオンライン！先日の学校保健委員会では、教育委員会のロッカールームからのzoom配信でした。各学校にはICTに堪能な先生方がいらっしゃいます。子供たちは、ウェビナーという視聴だけの機能を用いてタブレットにつながれた各教室のテレビで私の講話を聴きます。なるほど、画面に人がたくさん出てこないから、ごちゃごちゃしてなくて話しやすい！▼ところがです… 私の画面上には、司会進行役の担当の先生とzoomの管理者の先生の二人のみ。しかも、管理者の先生の画像はオフになっています。普段私は、教室の子供たちの様子などを眺めながら話していたのですが、こうなると司会の先生しか見えません(・\_・)でも、誰もいないよりマシです。2時間続きの1時間目は1, 2, 3年生への話です。なんとかその司会の先生のメモを取られている姿を見ながら話をしました。先生が途中で席を立てて画面から外れるときなど大変です。早く戻ってきてくれえ～と念じながら講話を進めます。▼さて、休み時間を挟んでの2時間目。今度は4, 5, 6年生。要領を覚え、司会の先生の反応を見ながらいい感じに進みます。面白く話すときなど、相手が笑っているかどうかの視覚情報は大切です。よしよし笑ってる！あれ？画面が(・\_・) 司会の先生のタブレットの充電が切れたらしく、画面上には画像オフの管理者の先生のみ…乗りに乗って話し始めたところでの独りぼっち感。自分のペースで話すのですが、話しながら、これひょっとして誰も聞いていないのでは？と不安になります。もしもそうなら、ロッカールームでタブレットを見ながらブツブツ独り言をしゃべっているただのおっさんです(T\_T) 講話中「聞いてますか？」なんて声をかけるわけにもいかず我慢していたところに、司会の先生が戻ってきました。▼おかえりなさい！！どんなにICT機器が進化しても、やはり人は人に癒されます。ICTを活用するうえで、機器の先にある人の存在は大切です。このprogressも、読んでくださる皆様の存在があってこそのお便りです。お付き合いくださった読者の皆様に心から感謝します。